

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかな回復がみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

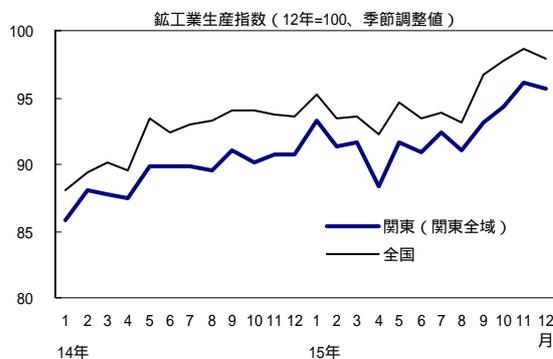
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 15 年 11 月)	今回 (平成 16 年 2 月)	
景況判断	持ち直しの動きが続いている	緩やかな回復がみられる	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加	
個人消費	おおむね横ばい	おおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる	
住宅建設	おおむね横ばい	大幅に増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。(関東全域)

一般機械は、デジタル民生機器用の半導体製造装置が好調なことや11月に印刷機械でスポット的な受注生産があり、引き続き高い伸びを示している。化学は、中国を中心としたアジア向け輸出が堅調に推移しているため、引き続き増加した。輸送機械は、トラックが排ガス規制による買い換え需要で堅調であるため、引き続き高水準で推移している。情報通信機械は、10月にカーナビゲーション、11月には携帯電話向けの部品、11~12月にかけてDVDが増加したこともあり、引き続き高水準で推移しているが、前期比でやや減少に転じた。電気機械は、国内半導体メーカー向けの半導体・IC測定器が好調であり、大幅な増加に転じた。



(備考) 平成 15 年 12 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

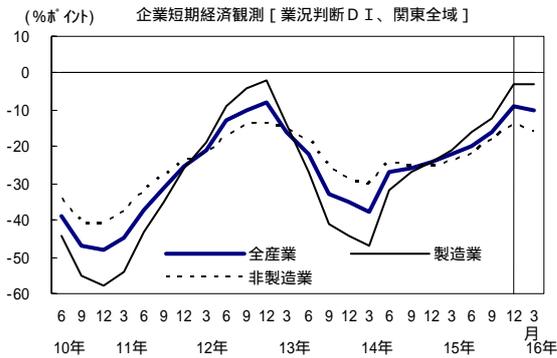
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	13.8	6.8	7.2	7.9	7.7
化学	13.7	1.1	2.9	1.7	0.4
輸送機械	11.3	5.7	2.5	1.7	9.0
情報通信機械	8.6	1.0	0.9	2.4	6.0
電気機械	7.9	0.1	8.8	9.8	6.3
鉱工業	100.0	2.1	3.5	3.5	1.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

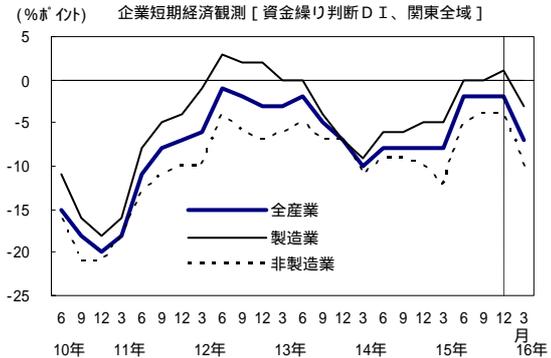
2. 10~12月期は速報値。

3. 10~12月期の化学の生産、出荷については、10月、11月確報値の平均より算出。在庫については、11月確報値。

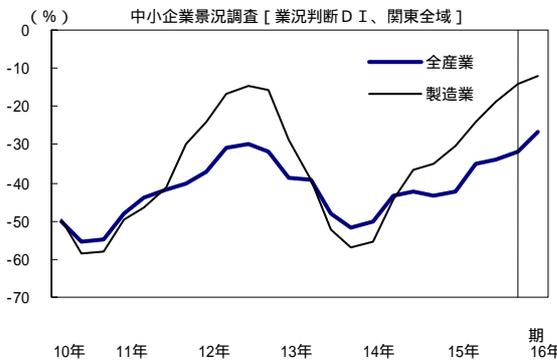
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「企業の設備投資により、建設業の景気はやや持ち直してきたといわれているが、周りの受注量をみると、まだ中小企業までは波及していない (建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

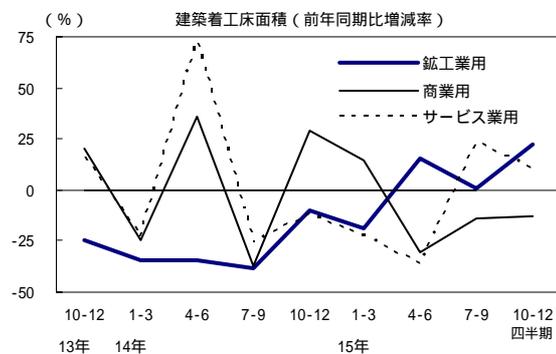
(3) 15年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査、関東全域)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	3.3	0.1(0.4)
製造業	13.9	1.9(0.5)
非製造業	2.1	0.3(0.4)

(備考) ()は前回 (9月) 調査比修正率。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる。

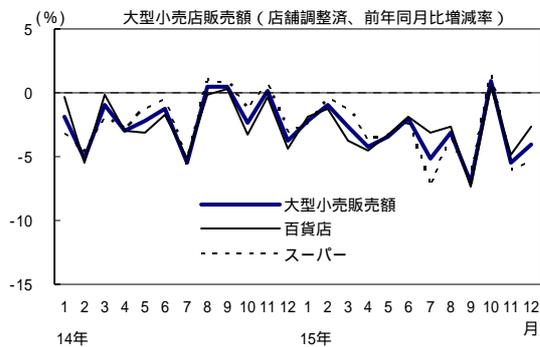
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は、気温の低下により衣料品の秋冬物に動きがみられ、身の回り品も好調であり、全体でも13か月ぶりに前年を上回った。11月は、気温が高めに推移したことから、季節商材が不振となり、再び前年割れとなった。12月は、身の回り品が前年を上回ったが、暖冬の影響により冬物衣料が不振であり、前月よりはやや持ち直したものの、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の1月の店頭売上高は、0.8%増と2か月連続で前年同月を上回っている。

スーパーは、10月は、主力の飲食料品がセール効果等により、衣料品では気温の低下により秋冬物に動きがみられたことから、全体でも11か月ぶりに前年を上回った。11月以降は、再び前年割れとなった。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「年末から正月にかけて暖冬が続き、初物商品のセールを早めに行行って売り切った。その後は、単価は低いが、厚手の冬物の単品が売れている。きれいな色の春物衣料にも動きが出ている(一般小売店[衣料・雑貨])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

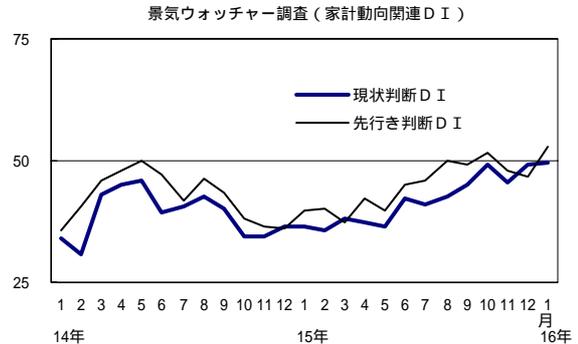
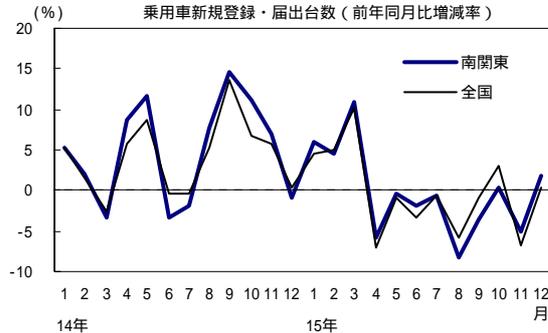


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.0	3.2	5.1	3.0
百貨店	2.4	3.2	4.3	2.5
スーパー	1.5	3.2	6.0	3.7
乗用車	7.8	2.5	3.7	1.2
景気ウォッチャー	36.6	38.6	42.9	47.8

(備考) 1 大型小売店販売額は店舗調整済。15年10-12月期は速報値。

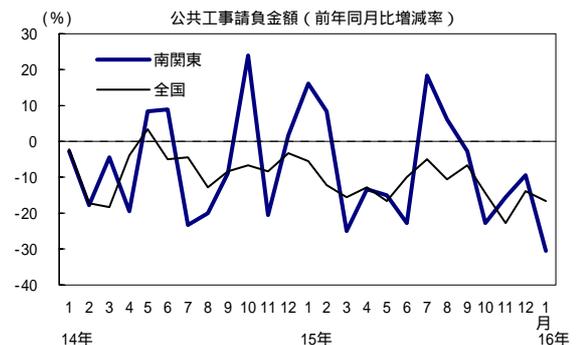
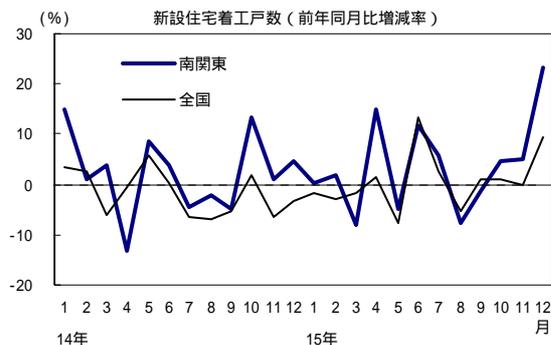
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家が前年を下回ったものの、分譲が前年を大きく上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

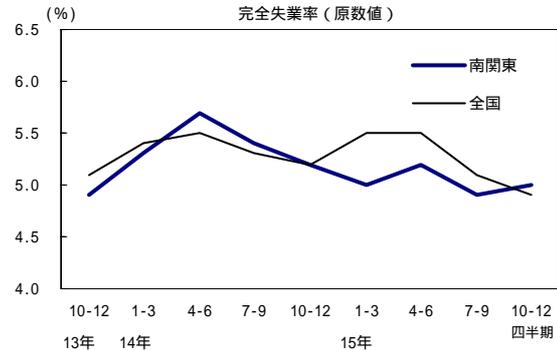
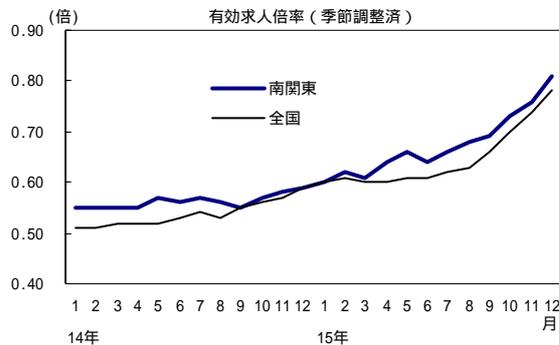


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月調査）[雇用関連（現状判断）]

「中途採用では、IT系企業の採用が目立つ。新卒では、重厚長大型企業の採用が一部で復活しており、電機メーカー、大手金融の採用意欲も高い。財団法人、特殊法人の募集もある（求人情報誌製作会社）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	16年1月
倒産件数 (前年比)	1,382 13.0	1,294 11.8	1,208 16.1	1,163 17.3	390 14.8
負債総額 (前年比)	19,914 15.2	8,523 40.0	13,483 1.6	7,886 51.1	1,270 81.9



景気ウォッチャー調査（1月調査）[合計DI（特徴的な判断理由）]

<現状>

・初商の福袋、クリアランスともに、比較的順調に推移している。紳士服や婦人服といった衣料品の好調さが全体をけん引している（百貨店）

<先行き>

・化粧品やスカーフ、帽子等で、春物の新作の動きが良い。ファッションに敏感な人が購入していること、機能面で充実していれば売れていることから、今後にも期待できる（百貨店）

